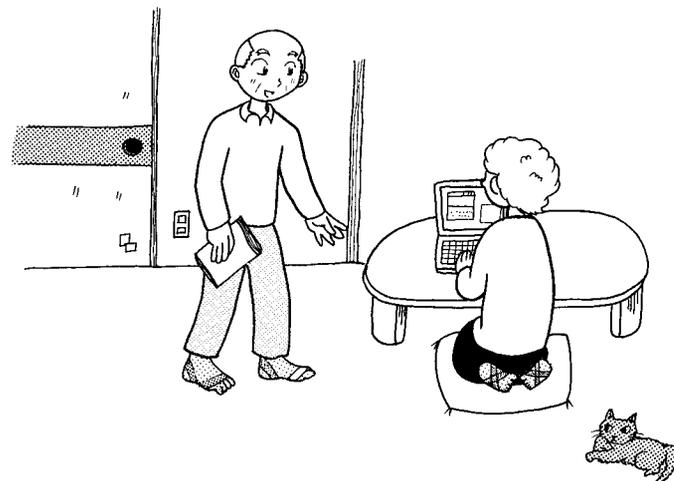


回内足、回外足、扁平足、ハイアーチといった足部障害の矯正または成長期における予防インナーソックスの開発計画

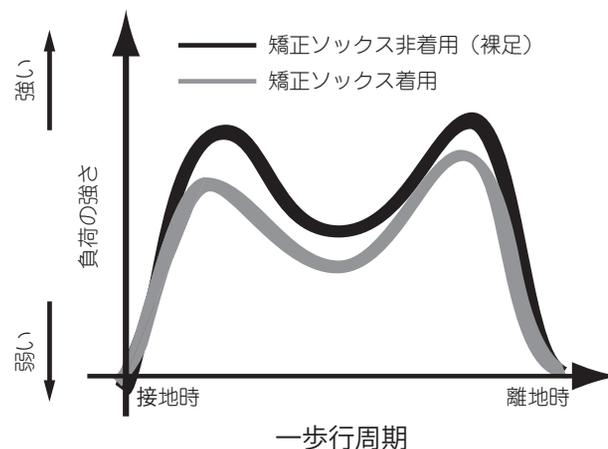
研究代表者 慶応義塾大学 仰木 裕嗣

本研究は代表的な足部障害である扁平足とハイアーチ障害に着目し、これを矯正する新規な処方策としてインナーソックスを試作し、その効果を検討したものです。これまでに行われてきたシューズ、テーピング処方、サポーター、インソールなどの矯正処方策とは異なり、ソックスの利便性に着目してその効用を検討しているのが特徴で、利点は簡便で、室内でも足部矯正が可能となるなど、和式の生活により適した処方策となっていることです。

検証は、扁平足、ハイアーチ、正常足の被験者を選別し、歩行実験と40cmの台から片足で降りる着地実験で行っています。インナーソックスは扁平足用とハイアーチ用とをそれぞれ個別に試作し、上記の実験結果から矯正効果を検証した結果、テーピング処方を参考にして開発した扁平足矯正用五指ソックスは足関節にかかる負荷を軽減させる効果が十分にあることが認められました。しかし、テーピングおよびバンテージ処方を参考にハイアーチ矯正用に開発したL字ソックスには残念ながらその効果は認められず、また繊維素材を変えて負荷を軽減させることも難しいと考えられ、更なる検討が必要であるという結果でありました。



扁平足を矯正する五指ソックスでは足関節にかかる負荷を軽減した。



扁平足の人々が矯正ソックスを着用した場合の一歩行周期での膝関節にかかる負荷(外転モーメント)の例